

法學博士稻田教授逝く

中央大學教授法學博士稻田周之助氏は舊臘十四日夜講義を終つて歸宅せらるるや急に病を發せられ年末に至り一旦危篤の状態に陥られたるも幸にして小康を保ち回復の望みありたる所去二月五日に至り急變を報せられ翌六日午前一時四十分遂に永眠せられたり享年實に六十又一、哀悼曷ぞ盡きん博士は慶應三年八月十四日新潟縣古志郡下鹽谷村大字楡原稻田清右衛門氏の長男として生れ明治十三年八月同縣長岡中學校に入學、十六年に卒業、同十六年十二月古志郡枋尾校授業生に任

し二十年九月中央大學の前身東京法學院に入學、同二十三年卒業、其後樞密院及文部省に屬吏たりしことありしが同二十六年大藏省より印度及海峽植民地貨幣制度取調を囑託せられ同二十七年より東京日日新聞社の前身日報社に社員たり同三十二年よりは古河鑛業所に勤務したるも數年にして退職し同四十三年には生産調査會委員を被仰付大正元年より中央大學講師と爲り旁ら東洋協會専門學校・專修大學及日本大學等にも教鞭を執りたることあり大正十一年九月に至り中央大學より法學博士の學位を亨けられ同十二年には司法省より借地借家調停委員を囑託せられ同十三年四月東京商科大學講師を同十四年三月借地借家臨時處理法施行に關する事務を司法省より又同年五月古社寺保存會委員を文部省より囑託せられたり博士は大正九年四月中央大學講師より教授に任し以て溘焉の時に至り大正元年より教鞭を母校に執らること實に十有六年、終始一貫、諄々として教へて倦むことを知らず學生の崇敬已まざる所たり博士は獨力政治學叢書を追次出版せられ第一

編軍政及軍備より以下植民政策、外交政策、日本憲政提要、日本政體史、政治心理學、人種問題、支那及露西亞、政治史要領、外交史要領、政治學講義、日本政治要史領、法理學之本源、日本憲法論、國際法論、階級爭鬪及革命の十六編に及ぶ而して最後の一篇は昨年十月を以つて發行せられ著書としては實に博士の絶筆たりしなり博士は中央大學に於ては植民政策、外交史、政治學、憲法、法理學及政治史等の諸科目を擔任せられたり博士は教授及右政治學叢書發刊の外本誌に於て常に其研究を公表せられたるもの數百篇の多數に上り其最後の論文は本誌新年號に掲載したる國際條約締結權にて是れ實に博士の眞の絶筆と認むべきものなり惟ふに博士は學殖深遠、人格温良にして剛毅古武士の倂あり其高風清節は世の敬慕する所たり今や若人一たび逝いて歸らず我學界頓に寂莫を加ふ嗚呼哀哉因に稻田家にては遺言に基き親族故舊のみにて簡單に荼毘に附せられ葬儀は追つて郷里に於て執行せらるゝ筈なり